

成田赤十字病院 内視鏡室

病院全体で取り組む感染対策により 安全で高度な医療サービスを実現

成田赤十字病院は昭和23年の開設以来、地域の中核病院として高度救急医療の提供と周辺施設との連携に努め、地域から厚い信頼を得て発展してきました。また、県内唯一の赤十字病院として災害救護に尽力し、県内外を問わず災害現場に救護班を派遣するなどの社会貢献も行っています。

同院の救命救急センターは、印旛山武医療圏の3次救急施設として365日24時間体制で急患に対応していますが、内視鏡室でも吐血に対する緊急内視鏡を行い、迅速な対応で地域の救急医療を支えています。また、内視鏡室では胆石症の治療やESD(内視鏡的粘膜切開剥離術)などの高度内視鏡治療を積極的に行い、症例数も県内でトップレベルを誇ります。消化器内科部長の小方信二先生は、「現在では内視鏡は検査だけでなく治療に多く用いられ、より高度な知識や技術が求められています。今後も医師と看護師の連携を深め、安全で質の高い内視鏡治療を地域に提供していきたい」とお話をされました。

同院では患者サービスや安全性の向上のために様々な小委員会を設置し、病院全体で医療の質を高めるための取り組みを行っています。それに加えて内視鏡室では、掲示物を患者さんに分かりやすい表現にしたり、手術の前後に病棟を訪問して患者さんのケアを行うなど、手術や検査に対する患者さんの不安を少しでも和らげ、コミュニケーションを密にすることで患者さんからの信頼を得られるように務めているそうです。感染対策への取り



千葉県成田市飯田町90番地の1

院長：加藤 誠

病床数：719床

年間内視鏡検査件数(平成17年実績)：

上部消化管 4,712例 下部消化管 1,515例

ERCP 227例 止血術 187例

ESD 52例(うち食道2例、胃50例)

大腸EMR 398例 検査ベッド 4台 洗浄器 4台

スコープ本数 18本(うち上部10本、下部 6本、ERCP用 2本)

スタッフ：消化器内科 5名 外科 6名 看護師15名

(うち内視鏡技師11名)

組みも積極的に行っており、責任者を配置して定期的な機器のメンテナンスや消毒剤の濃度測定等を実施し、内視鏡の洗浄消毒に関しては日本消化器内視鏡技師会の『内視鏡の洗浄・消毒に関するガイドライン第2版』を遵守した症例間消毒を徹底しています。処置具のディスポ化も積極的に行っており、看護師長の尾羽瀬美智子さんは「生検鉗子も3年ほど前からディスポ化しています。これにより、患者さんとスタッフの安全確保はもちろんですが、検査時間も短縮できたため、年々増加傾向にある内視鏡検査の効率的な実施にも貢献していると思います」と、そのメリットについてお話をいただきました。



内視鏡室のみなさん